

議会だより

あっさぶい

令和4年12月

No. 119

題字は、厚沢部町認定こども園 加向 春翔さん です。



STOP!! ジャガイモシストセンチュウ

～日本一のブランド「あっさぶメイクイン」を守ろう!～



公営塾改修工事費など

1億7919万2千円を補正

総額47億2534万8千円

令和4年第3回定例会が9月6日から8日までの3日間開かれ、補正予算等23件を審議し、いずれも原案どおり可決されました。

補正予算

費補助金 (2250万円)

●新型コロナウイルスワクチン接種委託料
(626万2千円)

一般会計

歳入歳出それぞれ1億7919万2千円を追加し、総額47億2534万8千円となりました。増額された主なものは次のとおりです。

●辺地共聴施設整備事業費補助金 (1233万2千円)

●公営塾改修工事費

(6402万円)

●プレミアム商品券発行事業

質疑応答(要旨のみ)

問 今年度のプレミアム商品券は、一部町外者向けの販売も要件としてあるが、その内容は。

香川議員

答 今回、道からの補助要件

として、町外の方も購入できるように対策を講じることが条件とされています。200組を予定しています。

問 公営塾を6,402万円で改修工事をするという提案について、その考え方は。

上戸議員

答 築40年の建物で、屋根及び外壁の改修も必要になっており、水回り関係もまるつきり別なところにも設置するという形になります。電気や機械設備というようなことを合計しますとこのぐらいの金額ということになってしまいます。

問 辺地共聴施設整備事業費の内容は。

高田議員

答 テレビの難視聴地域のための助成です。現在、町内に

は4箇所共聴施設があります
が、今回は赤沼地区の特別養
護老人ホームと認定こども
園、ひまわり団地地域の改修
を行います。

問 新型コロナウイルスワク
チンの接種委託料の内訳は。

山田議員

答 オミクロン株対応のワク
チンとしての接種委託料で6
26万2000円計上した所
です。今後は、国の指示に
従って実施していく予定です。

問 持続的畑作生産体系確立
緊急対策事業費補助金は。

山崎議員

答 種子馬鈴薯の罹病率0・
1%未満に低減する取組とし
て、抜取り回数8回以上、農
薬散布9回以上を実施した場
合、緊急増産分として反当2
万円、また、罹病率低減の取
組として反当8千円の交付金
が受けられます。

問 農業次世代人材投資事業
費補助金は。

山崎議員

答 49歳以下の新規就農者
に、経営が安定するまでの5
年間、国で定額の支援を行う
ものです。給付金額は1年間
で150万円で、今年新規就
農された1名の方に、9月と
3月に半分ずつ給付する予定
です。

介護保険会計

保険事業勘定は、介護給付
費準備基金積立金など179
3万8千円を増額し、総額7
億1315万3千円となりました。

簡易水道会計

簡易水道事業再評価検討書
作成業務委託料など910万
8千円を増額し、総額4億5
194万4千円となりました。

農業集落排水会計

赤沼町地内下水道施設移設
工事実施設計委託料344万
3千円を増額し、総額1億3
516万8千円となりました。

条例

●職員の育児休業等に関する
条例の一部を改正する条例
育児休業、介護休業等育児
又は家族介護を行う労働者の
福祉に関する法律が改正さ
れ、職員や非常勤職員の育児
休業の取得回数の制限緩和、
育児休業の取得要件の緩和に
ついての規定が10月1日に施
行されることに伴い、条例の
一部を改正しました。

人事

●任期満了に伴う固定資産評
価審査委員会委員の選任につ
いて、山内敏明さん(鶉町)を
選任することに同意しました。
●任期満了に伴う教育委員会
委員の任命について、道島康
明さん(赤沼町)を任命する
ことに同意しました。

専決処分

●令和4年度厚沢部町一般会
計補正予算(第3号)(第4号)
大雨災害に係わる増額補正を
承認しました。

問 大雨で同じ箇所の農道が

3回も被害を受けたところも
あり、例えばゴムで水切する
とか、そういうものに対する
補助も出せば、今後の経費が
かからない方法の1つと思う
が、どのように考えるか。

上戸議員

答 砂利だけでは、というお
話ですが、これまでも町とし
ましてはススイエース、林道
などに敷いているゴムのマッ
トを道路に敷設するというも
のに、2分の1の支援という
ことで継続してきたところで
あります。排水、流入、その
辺の対策をどのように取って
いくかは場所によっていろい
ろ考慮する部分がありますの
で、検討をしながら進めてい
こうとしているところです。

諮問

●国営相和地区農地開発事業
受益者負担金の滞納処分に関
する審査請求につき意見を求
めることについて、本審査請
求を棄却することに異議ない
ものとする事といたしました。

報告

●令和3年度健全化判断比率
の報告
●令和3年度公営企業会計に
係る資金不足比率の報告

議員派遣

●渡島・檜山管内町議会議員
研修会
目的 分権時代に対応した
議会の活性化及び議員の資質
向上を図るため。

場所 北斗市
期間 10月18日
議員 全議員

補正予算額一覧表

区分	補正額	補正後の額
会計名		
一般会計	1億7919万2千円	47億2534万8千円
介護保険事業特別会計 保険事業勘定	1793万8千円	7億1315万3千円
簡易水道事業 特別会計	910万8千円	4億5194万4千円
農業集落排水事業 特別会計	344万3千円	1億3516万8千円

一般質問

聞いてみたい、こんなこと

防災無線の設置は

上戸昌行議員

質問 1

現時点での導入は考えていない

浜田町長



上戸議員

問

さきの6月末豪雨で、町内に避難指示が出され、大事に至らなかったものの、避難指示が出ていることすら分からない人が多くいたとこのことです。

こうしたことから、このような緊急事態に、町民に対する伝達の方法の一つに防災無線があるので、当町において

答

も導入してはどうかと思うが、町ではどのように考えているのか。

本町の防災無線は、携帯型の受信機で通信を行う「移動系」という方式で整備をされており。

無線機を各家庭に設置する方式である「同報系」とは根本的に構造が違うために、設備の全面改修を行う必要があります。したがって、事業費も多額となることから、現時点での導入は考えておりません。

質問2 デマンドバスの運行は

町民のためのより利便性の高い公共交通体系の確立を目指す

浜田町長

問

昨年12月の町民座談会において、生活路線バス運行費補助を、デマンドバスの運行に替える検討を行いたい旨の説明をしていたが、本年度、町内のタクシー会社が営業を中止したことに伴い、町民が不便を感じているものと想定されるということです。

町では色々な移送サービスを実施しているものの、制限がなく自由に外出等ができるデマンドバス等の運行が望まれるので、これの検討経過と今後の見通しは。

答

少子高齢化や人口減少が進む中で、町民の移動手段の確保については、ますます生活上重要になってくると思います。

この課題に対応するために、今年5月に、新たに「公共交通活性化協議会」を立ち上げまして、「地域公共交通計画」策定に向けた協議を始めたばかりであります。

高齢者移送サービスなどの住民満足度が高い事業を残しながら、利用者が少ない生活維持路線バスの見直しを図るなど、町民のためのより利便性の高い公共交通体系の確立を目指していきたいと考えています。

質問3 带状疱疹ワクチン助成は

助成の必要性は低い

浜田町長

問

町では、高齢者等に対して、インフルエンザ予防接種や肺

答

炎球菌予防接種を無償で実施しているところですが、近年問題になっているのが带状疱疹であり、高い確率で带状疱疹後神経痛などの後遺症に悩まされるということです。

带状疱疹は、水ぼうそうのウイルスにより発症することであり、町で助成策を講じて、このワクチン接種を推進してはどうか。

带状疱疹についての予防接種の助成について、带状疱疹自体は、罹患しても病院通院による早期の処置により対応が可能であることから、ワクチン接種の助成の必要性は非常に低いという考え方の下、本町では助成をしていないというのが現状です。

質問4 道の駅の公園の展望台

来年度に全面的な解体撤去を進める

浜田町長

問

道の駅公園の展望台に行く階段等については、老朽化が進み、朽ちた状態になっていることから危険であり、閉鎖中であります。

改修または取壊しが必要と考えるが、どのようにする予定であるか。

答

来年度に全面的な解体撤去を進めていきたいと考えております。道の駅公園全体の再整備につきましては、総合的な道の駅公園として、町民や関係団体等の意見も伺いながら、さらには、国や道との補助事業の活用も十分検討した上で、これからの整備を考えていきたい。

質問5

サツマイモのキュアリング施設

これからの動向を見ながら考えていきたい

洪田町長

問

サツマイモは、作りやすいことから、今後さらなる作付面積の拡大が進むものと想定されます。

サツマイモを、生食用として出荷するには、切り口を乾かすことにより菌の侵入を防ぎ果実の腐敗を防ぐ処理、いわゆるキュアリング処理が必要となります。

当町においてはキュアリング施設がなく、個人で所有することも難しいところであるので、町が生産者組織を誘導しながら、キュアリング施設を導入してはどうかと思うが、町の考えは。

答

キュアリング施設を効果的に使用するためには、生産者単位での利用ではなく、組織的な利用が望ましいものと考えています。

キュアリング施設の先行投資は難しいと考えておりますが、国の補助事業を活用する場合にも、成果目標の設定や費用対効果の算定が必要となりますから、生産者が一丸となって取り組んでいかなければ、この整備計画に着手する

ことは困難であります。

町としては、生産者の皆さんが一致団結しながら、実需に基づく栽培拡大に取り組むことになった際には積極的な支援に努めてまいりたいと考えています。

えています。

また、サツマイモのキュアリング施設は、高額の施設になるものですから、これからの動向を見ながら考えていきたいと思っています。

質問1

肥料高騰対策と有機農業への取組は 総合的に影響緩和対策を着実に進める

佐々木宏議員

洪田町長



佐々木議員

問

燃油・肥料・飼料価格の高騰による生産コストの増大により、農業経営は厳しい環境におかれている。一方で、持続的な開発目標の観点から、「みどりの食料システム戦略」では2050年までに化学肥料の使用量30%低減を目指す

とされているが、これらの案件に緊急かつ機動的に対応した対策が重要と考えるが、町長の所信は。

①肥料、生産資材高騰に対する町独自の緊急支援は。
②「みどりの食料システム戦略」に関する農業者などへの周知方策と学習会開催の考えは。

③「みどりの食料システム戦略」に対応した関係機関による組織と専門委員会の立ち上げの考えは。
④有機農業基本計画作成と生産者認定の進めは。

答

①国では化学肥料の2割低減の取組や、前年度から増加した肥料費の7割を支援金として交付、道は肥料購入費1ト

ン当たり3千125円支援する方針ですが、支援の具体的な取り進めはまだ確定していない状況です。

町の独自支援の具体的な検討は国や道の支援を踏まえた上で検討する必要があります。関係団体と連携しながら総合的に影響緩和対策を着実に進めていきます。

②現時点では予定していませんが、今後作成した計画などは、町のホームページ等で周知をしていきます。

③計画等の策定段階では、道主導のもとに進めることになるので、設立の予定はありませんが、今後、必要に応じて専門委員会などの組織化も必要と考えています。

④計画作成は、道と共同作成を進めていきます。また、生産者認定については、環境負荷低減事業活動を作成し、申請する必要があるが、今後、発出される省令やガイドライン等を踏まえながら、関係機関とも連携を図り周知や支援に努めます。

質問 2 「ひぐまつぶ」の公開 で住民の安全確保を

9月末の公開を目指す

渋田町長

問

ヒグマと住民の危険回避や安全対策に向けた情報発信（ひぐまつぶ）がされていない状況であり、自然と触れ合う住民にヒグマの出没情報の公開を進めるべきと考えるが町長の所見は。

① 2017年導入以来「ひぐまつぶ」活用の実態は
② 「ひぐまつぶ」非公開の理由は
③ 町民から公開要望はなかったのか
④ 公開予定はいつからと考えるか
⑤ 近隣市町と合せた広域出没情報への情報提供の予定は

答

① 「ひぐまつぶ」については、2年間の試験運用を経まして平成31年度に導入し出没情報の管理、近隣町村との共

有、北海道への報告業務の際に活用しています。

② 出没情報は、鳥獣被害対策実施隊員のほか警察や一般町民からの情報提供に依存している為全てのヒグマの動向を網羅しているとは言えず、一般の方に出没情報がない場所が安全であるかのような誤解を与えかねないという危惧していた為です。

③ まちづくり座談会等で公開の要望もあり、道内においては市街地での熊の出没等が多数報道されている状況から今後「ひぐまつぶ」の情報を一般に公開する予定です。

④ 現在、ホームページの公開に向け、公開範囲等の内容や入力情報の整理をしている所であり、9月下旬には一般公開をしたいと思っています。

⑤ 「ひぐまつぶ」の中で近隣町の出没等も確認している所です。また、各周辺市町村とも係ごとに連絡を取り合っており、システムだけでなく相互に連絡を取り合いながら必要に応じて取り組んでいるところでもあります。

町の議会を傍聴しましょう

町政はあなたのために

次の定例会は12月12日(月)からです。(予定)

手続きは、議会事務局備え付けの傍聴者名簿に住所・氏名を記入するだけです。

令和3年度

各会計決算を認定

令和3年度各会計の決算認定は、9月7日から8日に決算審査特別委員会に付託し審議され、全会一致により認定可決されました。

委員会での主な質疑を要約してお知らせします。

一般会計

問 町民税で72万4千円の不納欠損額が出ているが、どういう状況か。 上戸委員

答 死亡に関する不納欠損が1件、処分する財産がないため、不納欠損が1件、居所不明が1件、生活保護受給者が1件となっており、合計で72万4,229円となっています。

問 固定資産税の収入未済額の状況は。 中山委員

答 令和3年度の収入未済額は、42万円で昨年度より20万程収入未済が減っているという事で徴収率は上がっている

て個別の折衝の効果が成果として表れているところです。

問 合併処理浄化槽設置事業費の対象者は。 松村委員

答 補助金の対象者は家屋の所有者、及び所有者が汲み取りを水洗にすることが基本です。町外の所有者は補助対象になりません。

問 見守りロボット20体の利用者数及び今後は。 松村委員

答 現在は4件の利用にとどまっていますが、今後は町民に周知し、モニタリングをしてロボットをより使いやすいうように住民に提供していきたいです。

問 各施設にWi-Fi設置の予定の考えは。 山田委員

答 公共Wi-Fiとなると月額結構な支出となるので、費用対効果で難しいという考えで設置は考えていません。

問 街路灯設置費は。

高田委員

答 町内5か所の修繕料になります。

問 商工業経営持続化支援金の今後の対策は。 山田委員

答 今年度につきましては、地方創生臨時交付金が配分になりましたら商工業者の現状を把握した上で商工会と相談し対策を講じていきたいという考えです。

問 自動車の借上げ111万円の内容は。 高田委員

答 地域おこし協力隊が活動で使う自動車の使用料、借上料です。

問 敬老ことぶき商品券370万2,000円を支出しているが、今年も同じことをやる考えがあるか。 上戸委員

答 町内会が敬老会を実施する活動に対して町が支援をしているという考え方に基づいていますが、もう時期が時期なので、早いところは新町等

から始まりますので、町内会連絡協議会等を通して町のほうに要請していただいて、町長が承諾すれば実施できると思っています。

問 地域プロジェクトマネージャーの活動実績は。 高田委員

答 現在町が進めている再生可能エネルギーの導入について、太陽光や小水力発電等の立ち上げを行っています。主な実績として、今年6月に北ガスとの地域連携協定締結等の業務を進めています。

問 国保病院繰出金は。

佐々木委員

答 昨年の決算で2億3600万円の町繰出しをしています。一般会計繰出金が多くなっているわけですが、この病院をなくすわけにはいきません。ただ、この繰出金については、いつまでも歯止めのない繰出しはできませんので、病院経営の中で十分検討しながら対応していきたい。

問 太鼓山の歩道維持補修の

内容は。

松村委員

答 太鼓山の歩道に関しては、複数箇所から登れるところがあります。その全域の草刈りをしています。

問 児童生徒芸術鑑賞会の内容は。 浜塚委員

答 昨年12月10日に民俗芸能衆として歌舞団のこぶし座に来てもらい小学校と中学校それぞれ1公演ずつ計2公演実施

施しました。

問 パークゴルフ場の関係で、昨年に芝刈り機を購入したが、グリーンを刈るのに駄目だというような声がある。グリーン専用の芝刈り機を買ってもらいたいということだが、どうか。 上戸委員

答 今年に入ってから納入業者さんと呼んで調整・部品交換してもらって、今は適切な長さで刈れるようにはなっていない。

おります。

問 特別徴収保険料でマイナス4万5,300円の収入未済額が出ているが、これは過剰に受けたということか。 上戸委員

答 年金から特別徴収された保険ですが、死亡により還付すべき保険料であります。還付につきましては、4年度の償還金で還付する予定で進んでいます。

令和3年度 厚沢部町各会計決算

区分 会計名		歳入（収入）	歳出（支出）	差 引 残 額
一 般 会 計		55億2032万8538円	54億161万214円	1億1871万8324円
国民健康保険事業特別会		4億9163万4588円	4億8786万1708円	377万2880円
後期高齢者医療特別会		7116万8963円	7110万2463円	6万6500円
介護保険事業特別会	保険業勘定	6億7878万373円	6億6117万7352円	1760万3021円
	介護サービス事業勘定	229万5260円	229万5260円	0円
簡易水道事業特別会		4億334万3931円	4億74万6097円	259万7834円
農業集落排水事業特別会		1億4410万9642円	1億4338万2357円	72万7285円
国民健康保険事業特別会	収益的収入及び支出	4億9742万5694円	4億9740万9984円	1万5710円
	資本的収入及び支出	545万4900円	545万4900円	0円

各会計決算審査意見書（抜粋）

歳入では、町税、国保税、介護保険料は依然として未納が発生している状況であり、町税及び国保税については、従来からの滞納整理機構への引継ぎ等に加え、必要に応じ資産調査や差押え戸別訪問による折衝を実施しており、徴収率は町税、国保税ともに微増している。介護保険料についても昨年と比べ現年度分は微増している。

各種負担金等の収納状況は、奨学資金貸付金償還金、公営住宅使用料、上下水道使用料等の未納も発生しており、長期化することのないよう個々の状況を十分に把握し対策を講じるべきである。特に、国営相和地区農地開発事業費過年度負担金は令和3年度末の未納額が、130,113,080円で収入実績は3,121,936円であった。それぞれのケースに応じた方策を選択し、早期解消するよう今後も努力されたい。なお、奨学資金貸付金償還金、公営住宅使用料についても継続した未納解消への取り組みに努められたい。

令和3年度決算状況においては、重点道の駅商業施設建設工事といった大型事業のほか、新型コロナウイルスワクチン接種や子育て世帯や住民税非課税世帯等への臨時特別給付金給付事業等が実施され、決算額では前年度を上回る結果となった。積立金現在高は引き続き50億円台を超えており、北海道市町村備荒資金組合の現在高は約1,261,019千円と健全財政の維持が図られている。

また、予算規模のみならずその実施内容について着目すると、財源は補助金等を活用し、町財政の負担を最小限に抑えた中で実施されているとともに、各分野において住民生活の向上を目的とした事業が選択されている。

しかし、地方交付税、交付金については国の動向に大きく左右され、令和3年度の水準が翌年度以降も維持される保障はなく、施設の老朽化により維持管理経費の増大や近年全国各地で頻発している大規模災害にも備えておかなければならないことから、財政力基盤の乏しい当町としては、今後も財政は厳しい状況下に置かれることを念頭に適正な予算執行を行い、常に費用対効果を検証し、引き続きコスト削減の努力を続け、適正な予算の執行に努めることが必要である。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響下においても、福祉・教育など広く住民生活に密着するサービスの水準を維持・継続し、引き続き地域経済の活性化を図るため実効性の高い事業を選択し、充実した行政サービスの向上に努め、今後も健全な財政運営を堅持されることを望み審査意見とする。

国民健康保険病院事業特別会計 決算審査意見書（抜粋）

公的医療機関の果たすべき大きな役割は、地域において提供されることが必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することにある。

令和3年度決算の収支に着目すると、一般会計の経費負担は従来からの考え方で、入院・外来ともに患者数・収入ともに減少している一方、新型コロナウイルスワクチン接種への取り組みにより一般会計からの繰出金は前年並みとなっている。また、建設改良費等については補助金を活用し、一般会計負担金の減額に努めている。また、地域医療・救急医療の確保及び医師確保対策に必要な不採算分についても必要な額を繰り出し、収支は均衡している。

なお、令和3年度決算に係る経理処理において、現金を伴わない支出として医業外費用における雑損失及び特別損失がそれぞれ計上されている。内容を審査したところ令和3年度の経理事務としては適切に事務処理がなされているものではある。ただし、特別損失については、毎年雑損失として処理すべき貯蔵品購入に係る消費税額を、令和3年度の特別損失として一括して計上したものである。事務処理としてはすでに改善は図られているとはいえ、今後は毎年の経理事務が適切となるよう指導を徹底すべきである。

新型コロナウイルス感染症は、変異株による感染拡大を続け、医療の逼迫など我が国の医療提供体制に多大な影響を及ぼしている。社会経済活動を維持するため、行動制限がない状況下ではあるが、行政・医療機関が連携の上、ワクチン接種を進め、感染拡大防止に尽力していただきたい。

地域に密着した医療機関として地域住民の健康を支え、保健・福祉の関係機関や近隣の医療機関との連携を図り、地域住民が安心して暮らすことができるよう、一層の医療提供体制の構築に努められたい。地域に見合った病院づくりのため、職員がそれぞれの役割を認識し、工夫・改善を繰り返し、地域住民のニーズに応じた医療サービスの提供を継続することを望み審査意見とする。

厚沢部町代表監査委員 岩 田 健 二
厚 沢 部 町 監 査 委 員 山 崎 孝

委員会活動

各常任委員会で行った第1回所管事務調査の内容をお知らせします。

総務文教常任委員会

第1回調査日 7月15日

1) 町有施設・町有地の活用方策について(旧厚沢部保育所、旧農業共済組合事務所等、職員住宅、旧教員住宅)

旧厚沢部保育所・旧農業共済組合事務所及び公宅・職員住宅・旧教員住宅の管理状況、今後の活用方策の方向性について資料説明を受け、旧農業共済組合事務所及び公宅の現地確認を行った。

旧厚沢部保育所については、現在建物の一部を貸付し、お菓子作り工房として使用されているが、今後は敷地を活用して保育園留学の拠点整備を行う構想があるとのことである。保育園留学は大変希望者が多く、当町にとって今後の大きな事業に成り得ることから、そのための体制整備は

急務であり、早急、かつ、町の中心という立地条件を生かした有効な活用を図っていただきたい。

旧農業共済組合事務所については、本年3月に受贈して、今後は公営塾として使用するために令和4年度での改修を予定しているとのことであり、現状では教室の手狭さが大きな課題となっていることから、早期の着工を望むものである。また公宅5棟の譲渡も受けており、公営塾スタッフの住宅として活用したい考えとのことであったが、現地を確認したところ現状でも居住できる状態にあることから、保育園留学の利用希望者に住宅として提供するなど、早期の貸付も進めるべきである。

職員住宅については、6月末時点で一般職員向けの住宅が9棟15戸、医師用住宅が4棟5戸であり、空室は4戸とのことであった。一般職員向け住宅のほとんどが築年数50年に迫っており、空室になった住宅から順次解体していく考えとのことである。

また、旧教員住宅(一般入居者)については、町内全地区で計36戸の内29戸が入居され空室は7戸とのことであった。建物の構造や築年数は職員住宅と同様であり、既に古くて居住が難しい住宅もあることから、空室となった住宅から順次解体していく考え方であるとの説明を受けた。

職員住宅・旧教員住宅とも築年数の経過と共に居住が困難な住宅も増えており、また当町には民間住宅も少ないという実情があることから、将来的に町内に住みたくても住宅がみつからないという状況も考えられるため、住宅の建て替えについての検討も行うべきである。

2) 旧小中学校の活用状況と今後の方向性について

旧小中学校の活用状況と今後の方向性について資料説明を受け、現在農産物生産組合により「農産物の選別・保管施設」として活用されている旧館中学校校舎の現地確認を行った。

旧美和小学校、旧清水小中学校、旧清和小学校、旧木間内小学校、旧富里小学校はそ

れぞれ個人や団体・会社に貸付しており、今後も引き続き使用してもらうとの考え方である。旧滝野小学校ではイベントで使用する物品やテント等を保管しており、建築後70年とかなり古い建物であり、他用途での使用や貸付は困難であるとの判断から、今後も倉庫的な位置付けとして管理していきたいとのことである。

旧館中学校は1階部分のみを農産物生産組合に貸付し、農産物の選別・保管の用途で活用されている。今後も引き続き使用してもらうとの考えであるが、2階部分を他者に貸付することは管理・防犯上好ましくないことから考えていないとのことであった。現地確認を行ったところ、同組合では使用のために必要な壁の取り壊しを自らが言い改装するなど、校舎を大変有効に活用しており、今後もさらに効率的な活用がされる事を期待するものである。また、体育館部分については、現在町内会により住民の運動場として利用されているが、様々なニーズを捉えながら有効な活用方法について検討願いたい。

旧鶉中学校については、現

在使用されていない状況にあるが、今後はグラウンドも含めてバイオマス発電設備として活用する構想があるとのことであり、早期に有効活用が図られることを望むものである。

なお、現在貸付している各校舎についても、毎年定期的な調査を行ない老朽化の状況や修繕の必要箇所など現状把握に努めることも必要である。

また、居住用途で貸付している場合には、雨漏り等の建物構造上の問題に起因し発生している事項については、町で支援することも検討するべきである。

3) 新防災計画の内容と災害用備品の保管状況について

現在の厚沢部町地域防災計画は、平成27年に改訂されたものであり、その後の水防法改正や新型コロナウイルス感染症予防対策の実施等に係る修正を加えた「新防災計画」として本年度改訂される予定である。

改訂に係るスケジュールと主に予定されている改訂点、災害備蓄品の保管状況について資料説明を受け、備蓄用倉

庫の現地確認を行った。

改訂については、庁内検討会議における検討、パブリックコメントによる意見聴取、防災会議での協議を経て、令和5年3月には「新防災計画」として策定する予定とのことである。主な改正点は、水防法改正により避難勧告が廃止され避難指示へと変更になった点、社会福祉協議会をボランティアセンターとして位置付ける点、避難所の収容人数を変更することと感染症予防対策を盛り込む点等があるとの説明があった。計画の改訂にあたっては、関係機関と十分な協議を行い、近年の温暖化に対応した、また、当地域の実態に即し実効性のある防災計画となるよう適切に対応してほしい。

災害用備品については、防災計画（個別計画）により5年間の品目毎の目標数と年次配備数を定めて計画的な整備を進めている。食料品は賞味期限5年の保存パンやアルファ米、飲料水を人口の5%程度を想定して備蓄し、生活必需品として「毛布・畳ロール・段ボールベッド」を、避難所資機材として「発電機・

投光器・石油ストーブ等」の備蓄がされており、それぞれ適切に保管されていた。今後適切な管理と計画的な備蓄に努め、災害時には有効に活用されることを期待するものである。

4 道の駅整備の進捗状況について（大型バス駐車・バイク駐車利用スペースの利便性等）

道の駅整備に係る昨年度までの経過、今年度の整備内容と進捗状況・完成（完了）の見通し、駐車場の状況、今後の整備予定について資料説明を受けた。また、建設工事中である商業施設、既存の産業会館、駐車場等の外構部分について現地確認を行った。商業施設については、本体工事（建築・機械・電気）が概ね完了し、映像空間用の機器・システム・ソフト、休憩スペース等の備品については後日完了・納品の運びであり、8月20日の施設オープンを予定したいとのことであった。テナントスペース、フードコート、歴史文化情報発信施設が組み込まれた施設であり、利用客にとって魅力的な他の道の

駅にはない差別化された運営がなされ、更なる集客に結び付くことを期待したい。

なお、現状でも繁忙期には農産物等の販売スペースが足りない状況があり、新設された商業施設内には物販専用スペースがないことから、既存の産業会館内の売場面積拡大のための建物使用方法の検討、搬入口の改善、バックヤードの設置、これらについては今後も継続して検討が必要である。

昨年8月、新たに供用を開始した24時間トイレ側の駐車場は普通車専用とされており、大型車（バス）の立入は禁止、大型車の国道からの出入は産業会館側入口にのみ限定されている。これらの通行事情は、檜山の玄関口として函館方面からの誘客、トイレ及び商業施設、産業会館の一体的な利用者の動線を考えた場合に、大変利便性に欠けているものと思われ、トイレ側の駐車場から大型車（バス）が入れるような環境の整備を行うべきである。

また、現在バイク用の駐車場は4台分のみであるが、バイク利用者は一定集団で利用

される場合が多く、駐車台数が不足している状況である。

現状の緑地帯をバイク用の駐車場として利用するなど、バイクの駐車可能台数を増やすための検討も必要である。

産業会館前の花壇については、駐車スペースの拡張・安全性を考慮して撤去するなど、駐車場内の車両動線に配慮した改善方法を検討することも必要と思われる。

今後、利用客の駐車可能な台数を増やすために、既存の産業会館裏側に「通路兼職員駐車場」の整備を計画したいとのことであったが、商業施設オープンに伴い駐車場利用客の急増、混雑が見込まれることから、早期の整備に努めてほしい。

産業厚生常任委員会

第1回調査日 7月11日

1 有害鳥獣対策について

令和3年度の有害鳥獣による農作物の被害額は、2,375万円と令和2年度の半分以下であり、農業者の方自ら電気柵を設置され、その効果が出てきているが、その反

面、有害鳥獣の個体数が増え、きている状況がある。

自分の農地は自ら守ることが重要であるため、農業者に対して電気柵や、はこわなの設置といった自己防衛に努めるよう、特に電気柵柵での対策が大きな有効策であるため、積極的に周知していくべきであるが、現在の電気柵柵購入に対しての助成が現在の物価高騰やそもその電気柵柵購入額に対して適正であるか見直しが必要であると考え。令和元年度より、森林管理署より45基くりわなの提供を受けており、成果も非常に大きく、追加での提供を受けられることを望む。

また、ハンターは高齢化等により不足する可能性があることから、町が行っている免許や許可に関わる助成だけではなく、より幅広く助成を実施しハンターの確保につながるよう検討すべきである。

広域連携についても、有効策になりえるかは難しいが、今後近隣町とも話し合いの場を設けていくことを期待する。

2 認定こども園への留学状況について

保育園留学について、体制・申込状況等について資料説明を受け、現地調査を行った。

保育園留学推進協議会を設置し、また、町と株式会社キツチハイクと連携協定を結び現在運営をしている。令和4年度から、地方創生推進交付金を活用している。超長期的関係人口を創出し、厚沢部町への移住につながる数少ない事業であり、応募も殺到しているところである。

ただ保育をするだけではなく体験メニューもあり、農作物収穫体験及び試食、そば打ち体験、舞茸工場の見学、郷土料理教室等を実施し、厚沢部町らしい魅力ある取り組みを行い発信している。園児は都会から来る子ども達と接してコミュニケーション能力が向上し、また、たくさんのお会い別れがあり、それを常に繰り返しており心の成長にもつながっている。保育園留学で来る保護者の方も、自分の子どもの変化や新たな一面などを見ることができ、大変満足しており、多くの体験者がリピーターになっている。現在は町内6か所の住宅を利用し受入れをしている。既

に430件以上の問い合わせがあり、100件近くが申込確定をしている。キャンセル待ちも約100件あり大変好評であるが、キャンセル待ちを可能な限りなくし、受入れをより増やせるよう保育園留学用の住宅を確保するなど、体制整備を望む。

今年度取り組んでいることとして、旅先納税やキッズドクターアプリなどを始めるなど保育園留学で来る家族の利便性を考えた取組みを行っている。

今後は、保育園留学で来る家族の移動手段、地域住民とのコミュニケーションをとれる場の確保、また保育園留学を通じて移住を考えている方々が本当に移住できるような住居の確保や移住のための施策を期待する。

3) 公営塾の現状について

公営塾は、都市部と同等な教育機会を実現し、学力の底上げと課題解決能力や倫理的思考力といったこれからの時代に求められる能力を身に付け、予測困難な社会変化の中でも生き抜く、時代に対応した個人の資質を養成すること

を目的に設置された。

昨年度の中学3年生進学実績は、函館市内の高校・江差高校を中心に27名、高校3年生進学実績は国公立大学2名含む3名の合格者を輩出した。今年度は、令和4年7月1日現在、高校生14名、中学生（1年生を除く）29名で、開塾当初から減っているが町内の55%以上の学生が通塾している状況である。

現在は、中学生がゆいまゝる2階、高校生が山村開発センター1階小会議室を使用している。いずれの教室も狭く、中学生について学年一斉での指導か到達度によるクラス分けを行うか、また、既習事項の復習が中心となっており、そのことにより公営塾をやむを得なく辞める学生もおり、今後は予習もするべきかどうか、学生また保護者の意向に沿った塾の運営を望む。

今後、旧農業共済事務所に移転し、より学生の学習環境が整うと見込まれるが、可能な限り早期に移転をし、学生の学習意欲を高めるような取り組みを期待している。

4) 国保病院の運営状況につ

いて

国保病院の医師体制は令和4年7月現在、常勤医師が3名、眼科医師1名、非常勤医師1名の計5名体制で、看護師は会計年度任用職員等含め16名となっている。新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、令和2年度に比べて令和3年度の入院患者は減少しており、外来患者も入院ほど大きくはないが減少している。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症ワクチン接種委託料、体制整備補助金等の収益があり入院収益の減少を賄えたが、令和4年度はワクチン接種における同程度の収益が見込めなくなる。また、医師の働き方改革が6年度から始まり、医師の当直日数や時間外勤務の上限規制、医師の健康や医療の質を確保するため追加的健康確保措置、また時間外勤務の賃金に対して割増率の引き上げが進められ、経営だけではなく体制についても厳しくなることが予想される。

医師・看護師等の不足、人口減少・少子高齢化による医療需要の変化により、持続可能な経営を確保しきれない病

院が多くなっている中、令和5年度中に策定される公立病院経営強化プランにおいて、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するということを重視し、国保病院の経営が強化されていくことが望まれる。

意見書を提出しました

第3回定例会で意見書2件を原案どおり可決し、関係省庁に提出しました。(内容省略)

●国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、国土強靱化担当大臣

●特別支援学校の過大過密解消及び特別支援学級の学級編制標準の改善を求める意見書

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣

11月4日 第3回臨時会

第3回臨時会が11月4日招集され、補正予算案1件、契約の締結案1件を審議し、原案どおり可決されました。

補正予算

一般会計（令和4年度）

歳入歳出それぞれ3750万円を追加し、総額47億6284万8千円となりました。増額補正の内容は、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金等です。

契約

●厚沢部町国民健康保険病院パッケージ型消火設備設置工事請負契約

議員派遣

●総務文教常任委員会視察研修

目的 コンパクトシティ並びに新電力構想の先進事例及び新設された道の駅を視察し、今後の行政推進の参考とする。

主 な 議 会 の う ご き (6月定例会後から11月臨時会まで)

月日	主 要 事 項
5	議員全員協議会（第1会議室） 議員、事務局出席
6	町村議会議員研修会及び行政視察（札幌市、苫小牧市） 議員、事務局出席
7 11	産業厚生常任委員会所管事務調査（議員控室、認定こども園） 委員、議長、事務局出席
14	議会広報編集特別委員会（議員控室） 委員、事務局出席
15	総務文教常任委員会所管事務調査（議員控室、旧館中学校、防災車庫） 委員、事務局出席
25	産業厚生常任委員会視察研修（栃木県、福島県） 委員、議長、事務局出席
1	議会広報編集特別委員会（議員控室） 委員、事務局出席
8 12	議員全員協議会（第1会議室） 議員、事務局出席
18	議員全体会（議員控室） 議員、事務局出席
20	議会広報編集特別委員会（議員控室） 委員、事務局出席
20	重点道の駅あさぶ商業施設オープンセレモニー（道の駅） 議員出席
1	議会運営委員会（議員控室） 委員、正副議長、事務局出席
6	第3回町議会定例会招集（議場） 議員、事務局出席
9 8	議員全員協議会（第1会議室） 議員、事務局出席
8	総務文教常任委員会（議員控室） 委員、事務局出席
8	産業厚生常任委員会（議長室） 委員、議長、事務局出席
5	議会広報編集特別委員会（議員控室） 委員、事務局出席
6	長野県須坂市議会行政視察（第1会議室、こども園） 議長、事務局出席
12	産業厚生常任委員会所管事務調査（議員控室、現地） 委員、議長、事務局出席
10 18	渡島・檜山町村議会議員研修会（北斗市） 議員、事務局出席
26	総務文教常任委員会所管事務調査（議員控室、現地） 委員、事務局出席
27	新潟県十日町市議会行政視察（第1会議室、こども園） 副議長、事務局出席
28	議会広報編集特別委員会（議員控室） 委員、事務局出席
11 1	愛媛県愛南町議会行政視察（山村開発センター集会室） 議長、事務局出席

場所 夕張市、上士幌町
期間 11月16～18日
議員 高田 一弥
松村 松雄
中山 俊勝
上戸 昌行
山田 克哉



編集後記

先日、渡島・檜山管内市町村議会議員研修会に参加させて頂き、その中で北海道建設協会副会長の栗田悟氏が、「第二青函トンネル構想について」という

講演をされていました。現在、使用されている青函トンネルとは別に、津軽海峡に新たなトンネルをつくるという構想で、内径15メートルの円形の中が二層にわかれており、上部は2車線の自動車専用道路があり、安全性の配慮から、自動走行運転の自動車のみという条件はありますが、北海道と本州を自動車で行き来できるというものです。又、トンネルの下部には貨物新幹線専用の路線があり、現状のフェリーを利用したトラック輸送が約80%を占める北海道の物流が、よりスピーディーに輸送され、コストの縮減にも大きな効果が現れると説明されていました。当町の農産物も収穫して、その日のうちに本州各地に届けられる、そういうことが実現するかもしれません。

もしも予算が確保でき、工事に着手できたとしても、調査設計・施工・アクセス道の整備を含め、約15年の期間を要する長期的な計画で、まだまだ構想も検討を重ねている段階ではありますが、いつかは津軽海峡を自動車で渡れる、そんな時代が来るかもしれません。（か）

□議会広報編集特別委員会
委員長 松村 松雄
副委員長 上戸 昌行
委員 山田 克哉
委員 香川 直樹